

# 技術・家庭科(家庭分野)学習指導案

## 授業の視点

実際の食品を用いて選択するための視点について考え、他生徒と意見交流したことは、用途に応じて商品を選択しようと工夫しようとするために有効であったか。

### I 題材名 「食品の選択と購入について考えよう」

### II 考察

(1)生徒観(男子15人【内1人特別支援学級在籍】女子12人 計27人)

#### 【関心・意欲・態度】

本学級の生徒は、授業に対して意欲的に臨むことができている。食を題材とした授業では、自身の経験や家庭での状況から発言をすることが多く、食を身近な問題として捉えることができている。買い物をする際には、親と一緒に買い物をする生徒がほとんどであり、家族で食べる食品を自分自身で選択している生徒は少ない。自分で食べる菓子や飲料などを選択することはあっても、値段や好みで商品を選択している生徒が多く、食品に何が含まれているかを気にしながら選択している生徒が少ないと考えられる。

#### 【創意・工夫】

自分自身にとって良い食生活になるように食品を選択することができるかという問いに対して半数以上の生徒が「大体できている」と答えている。しかし、商品を選択する際に一番気になるところは「値段」や「好み」であることから、本来の意味で豊かな食生活にしようという意識は低いように感じる。そこで、値段や好みだけでなく、目的、栄養、環境への影響、安全性などに配慮して食材の選択や利用ができるような判断力と実践力を身につけさせたいと考える。

#### 【技能】

アンケート結果から食品購入の際は「値段」と「味」を重視して購入する生徒が多いということが分かった。そこで、状況に応じた選択の仕方ができるようになったり、食品の表示からも様々な情報を得ることができたりすることに気づかせたいと考えた。食品の表示や品質に着目させることで様々な情報から用途に合った食品を選択することの大切さに気付かせ、消費者として適切な選択ができるようにする必要がある。

#### 【知識・理解】

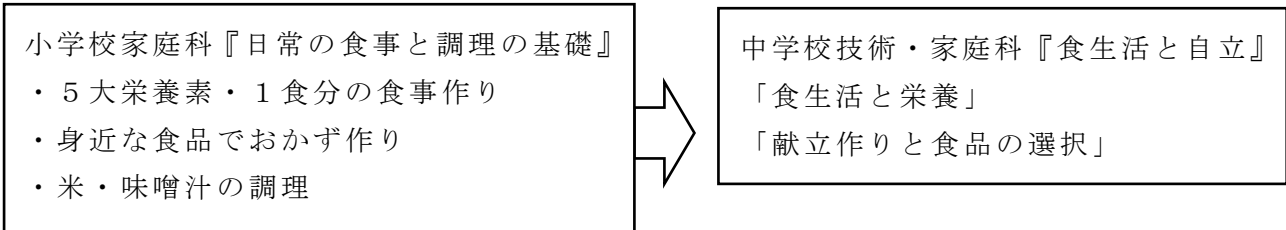
生鮮食品は食品の「はり・つや・表示」などから品質を見分けるとよいとほとんどの生徒が理解することができる。しかし、加工食品は中身が見えないこともあり、どこを見て品質や安全性などを判断すればよいのか知らない生徒もいる。そこで、加工食品の表示やマークを読み取るための知識を身に付けさせ、値段や味以外でも食品を選択できる知識を身に付けさせる必要がある。

### (2)教材観

本題材は、中学校学習指導要領技術・家庭科、家庭分野「B衣食住の生活」の項目(3)ーア「日常生活と関連づけ、用途に応じた食品の選択について理解し、適切にできること。」にあたる。生徒の身の回りには、様々な食品が溢れており、多量の情報の中から必要な情報を読み取り、商品を選択していく力を身に付ける必要がある。そこで、実際の商品を使い、実生活を想定した授業展開を行うことで、好みや味だけでなく、食品から読み取れる

情報から選択できるようになる力を身に付けさせたい。また、友人と意見交換させることにより、選択する理由は個人の考えによって様々であり食事を作る相手や目的によって選択する食品が異なってくることに気付かせたい。

### (3) 系統



### (4) 指導方針

- 実物を用意し、実際の選択場面を想定することで、生徒が主体的に学べるよう環境設定をする。
- 選んだ食品について理由を発表し合い、想定する相手によって、選ぶ観点が変わってくることを理解できるようにする。
- グループを3人ずつにし、全員が意見交換できるようにする。
- 数名の生徒を指名し、買い物を想定したロールプレイを行うことで、全体で考えを共有できるようにする。
- 情報量が多すぎて必要な情報を収集できない生徒には、比べるポイントに○を付けるなどして、比較検討できるようにする。
- 目当てを提示し、生徒が目的を意識して授業に臨めるようにする。
- 振り返りを生徒に考えさせることで、本時の学びを意識させ、共通理解する。

## 3 題材の評価規準

### 【生活や技術への関心・意欲・態度】

生活をよりよくするために、用途に合った食品を意欲的に考え、選択することができる。

### 【生活を工夫し想像する能力】

収集・整理した情報を活用し、用途に合った食品の選択について工夫することができる。

### 【生活の技能】

身近な食品を整理するために必要な情報を収集・整理することができる。

### 【生活や技術についての知識・理解】

食品を選択するための観点について理解している。

## 4 題材の目標

目的に応じて食品を適切に選択できるようにする。

5 指導計画及び評価項目(全10時間) 本時は8時間目

時間	学習活動	ねらい	評価項目【評価方法】
1	食品に含まれる栄養を調べる。	身近な食品の栄養素を調べよう。	【関】食品に含まれる栄養素について意欲的に調べようとしている。(観察)
2	何をどのくらい食べれば良いか考える。	食品を6つの食品群に分類しよう。	【知】6つの食品群について理解することができる。(ワークシート・観察)
3		1日に必要な栄養量について知り、自分の食生活の課題を見つけよう。	【知】1日に必要な栄養素量について理解することができる。(ワークシート・観察) 【工】自分の食事を振り返り、問題を見いだして課題を設定している。(ワークシート・観察)
4	バランスのよい食事について考える。	必要な栄養素を満たす献立について考えよう。	【工】中学生に必要な1日分の栄養素を満たすよう、献立について考え、工夫している。(ワークシート・観察)
5			
6	生鮮食品と加工食品の特徴を知る。	生鮮食品と加工食品の特徴について知ろう。	【知】生鮮食品と加工食品の見分け方について理解している。(ワークシート・観察)
7	食品の選択と購入について考える。	品質の見分け方について考えよう。	【技】身近な食品を選択するために情報を収集・整理することができる。(観察)
8 (本時)		目的に合った食品の選択ができるようになろう。	【工】収集・整理した情報を活用し、用途に合った食品の選択について工夫することができる。(ワークシート・観察)
9	食品の保存と食中毒の防止について考える。	食品の保存について考えよう。	【知】食品の保存方法について理解している。(ワークシート・観察)
10	各自の課題を解決するための栄養バランスの整った献立を作成し、調理計画を作成する。	各自の課題を解決するための献立を作成し、家庭で調理できるように調理計画を作成しよう。	【工】既習の食品に含まれる栄養素や1日に必要な栄養素量等を活用しながら、各自の課題を解決できる献立を作成しようとしている。 【工】既習の食品の選択の仕方を活用しながら、調理計画を作成しようとしている。

6 本時の学習

(1)ねらい 食品の品質を見分け、用途に応じて選択できるようにする。

(2)準備 加工食品数点 ワークシート

(3)展開

	学習活動	時間	学習活動への支援及び留意点
つかむ	1 本時のめあてを確認し、課題意識をもたせる。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>加工食品を購入する時、何に気をつけて購入している意見を言う。</li> </ul>
	めあて: 目的に合った食品の選択ができるようになるう		
追究する	2 食品から読み取れる情報を整理する。	40	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品の実物と、食品表示を印刷した物を用意し、比較できるようにする。</li> <li>表示だけでなく、食品全体から読み取れるように読み取るポイントを掲示しておく。</li> <li>読み取った情報を発表し、共有できるようにする。</li> </ul>
	3 相手や用途を想定して食品の選択をする。		<ul style="list-style-type: none"> <li>相手や用途を意識して選択するための視点を考えられるよう、場面設定を伝える。</li> <li>なぜそのような選択をしたのか、理由を必ず考えさせる。</li> </ul>
	4 選択した理由をグループ内で共有する。		<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【工】収集・整理した情報を活用し、用途に合った食品の選択について工夫することができる。(ワークシート・観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>選択した食品をグループ内で発表し合い、食品を選択するための視点には様々あることに気付かせる。</li> <li>自分とは違った視点で選択している生徒の意見を聞くことで、考え方の幅を広げられるようにする。</li> <li>意見を聞いて考えが変わったら商品を変更しても良いことを伝える。</li> </ul>
	5 全体で意見を共有する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>教師とともにロールプレイをすることで、様々な考え方に触れられるようにする。</li> </ul>
まとめる	6 本時のまとめと、振り返りをする。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業のまとめを発表させることで、本時の学びを意識させる。</li> <li>まとめられない場合は、キーワードなどを言わせ、教師が文章化する。</li> </ul>